

つくば生物ジャーナルのオンライン刊行と 生物学類ホームページについて

生命・情報等教育研究支援室
生物科学系

安部 七 恵
丸尾 文 昭

国立大学の独立法人化が決まり、生物学類も学生や社会の要望に対し、一層迅速に対応していかなければならなくなってきました。社会が今、大学に何を求めているのか、どのような大学を望んでいるのか、社会の要請を的確に把握する必要があります。

生物学類では、以前より生物学類ホームページ[図1]を開設し、学類に関する様々な情報を社会に発信しています。その中に、掲示板があり、社会の声を収集することができました。しかし、その多くは、単なるおしゃべりの広がりや終わったり、落書きに近いものでした。

そこで、個々人の意見を生物学類が審査・査読し権威づけ、オンラインジャーナルとして刊行することとなりました。この「つくば生物ジャーナル」は、筑波大学生物学類の卒業生・退官教官・在校生・教職員に限らず、生物学や生物学類に関心を寄せてくださる一般の方々の研究や意見の発表の場となり、また議論の場となることを期待しています。と同時に、社会の声を広く収集・蓄積し、生物学類教育の自己点検や再編に活用するとともに、生物学類生の進路決定の指針となることも期待しています。

「つくば生物ジャーナル(Tsukuba Journal of Biology) ISSN:1347-7048」は、2002年の9月20日から月刊で、オンライン刊行しています。私は、昨年7月よりつくば生物ジャーナル編集事務局のメンバーとして、生物科学系・丸尾文昭氏とともに、ジャーナルの刊行の仕事に携わっております。主な仕事は、投稿していただいた原稿を読み、校正をすること、そしてオンラインで閲覧できるようにホームページを作成すること、著者のプロフィールを作成することなどです。原稿の投稿は、電子メールまたはフロッピィディスクを送っていただくようにしておりますが、中には手書きの原稿等もあります。そのような時は、ワープロソフトで原稿の入力作業も行います。

つくば生物ジャーナルは<http://www.biol.tsukuba.ac.jp/tjb/>にアクセスしていただくと見ることができますが、筑波大学の公式ページの「生物学類」<http://www.biol.tsukuba.ac.jp/cbs/>からも見ることができます。<http://www.biol.tsukuba.ac.jp/tjb/>では、過去の全ての月刊のジャーナル[図2]が一覧として表示され各月号をクリックすると、その月刊誌の目次が表示されます[図3]。目次のタイトルの右側には、「画面」と「印刷」のボタンを配置し、パソコン画面上で読みやすいhtml版と、webブラウザや個々のパソコンの設定に左右されず、統一したレイアウトで印刷して読めるPDF版の2種類を用意しました。著者名をクリックすると、著者のプロフィールと写真が紹介されるようになっています。また、ジャーナルは月刊ですので、その月号の目玉となるような特集を組んだり、連載物やシリーズ物を盛り込んだりと、読者の方の目を引くように工夫しています。

学類レベルのジャーナルの刊行は、他に例をみない筑波大学生物学類だけの独創的な取り組みです。この取り組みが大学にも認められ、創刊号(2002年9月号)の印刷製本費を学長裁量経費より拠出していただきました。印刷製本版は、著者や生物学類関係者はもちろん、学内外の関係各所に配本し積極的にアピールしました。学外の生物学研究会の方や生物学類生の父兄からは、印刷版送付の希望があり、また、2003年1月23日付の読売新聞茨城版には、「筑波大生物学

類ホームページで「月刊誌」を創刊」と題してつくば生物ジャーナルがトップニュースとして報じられました〔図4〕。このことから、学外の方々から高い関心を寄せられていることがうかがい知れます。今後、つくば生物ジャーナル及び生物学類ホームページの更なる充実を行い、読者層・投稿者層の拡充を図っていききたいと思います。



図1 生物学類HPのトップページ

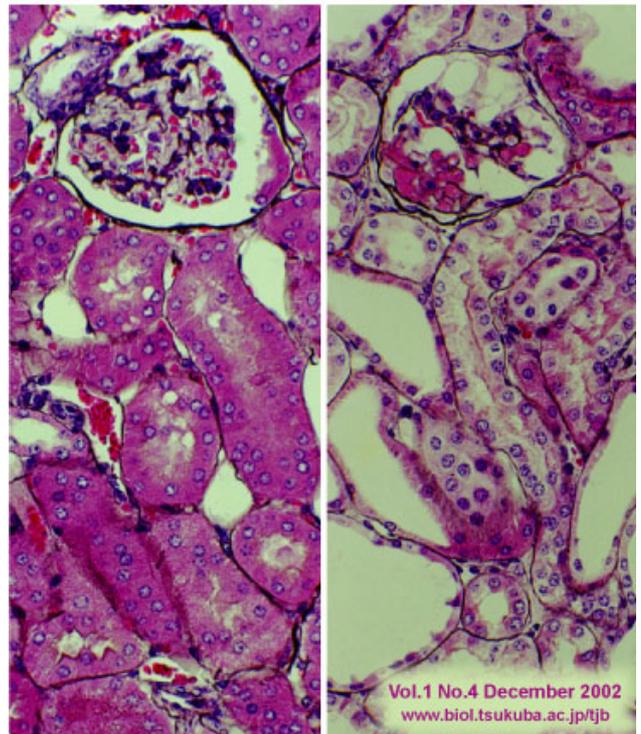
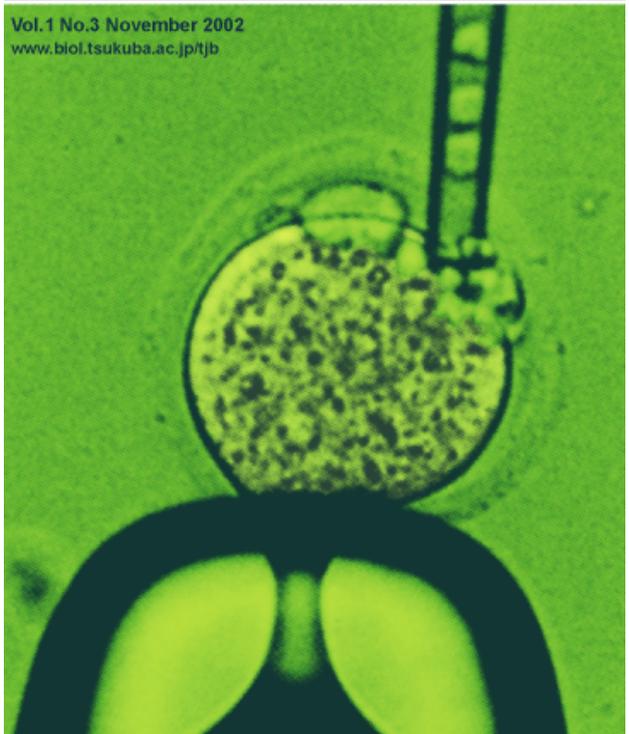


図2 つくば生物ジャーナルの表紙

筑波大生物学類

ホームページで 「月刊誌」を創刊

筑波大学の生物学類(林純一学類長)が、大学の学科学位では全国でも例のない「月刊誌」をつくば生物ジャーナルを、インターネットのホームページ上に創刊した。二〇〇四年度に迫った国立大学の独立行政法人化を見据え、社会の要請に応じた教育カリキュラム作りに取り組むため、卒業生や退職した教員、小中高の教員など、学外とのコミュニケーションの場を育てたいとしている。

筑波大生物学類では、これまでホームページ上で情報発信し、学外の意見を可能な限り取り入れてきた。しかし、気運に書き込める掲示板では、無責任なおしやべりに終わることが多く、建設的な議論には発展しなかったという。

そこで、教員会議で話し合い、書き手の意見を厳正に審査して掲載する「月刊誌」をホームページ上に創刊することにした。編集委員会を設置して投稿論文を受け付け、掲載にあたっては現役教員らが

学外との交流の場に 論文など掲載の審査

審査する。

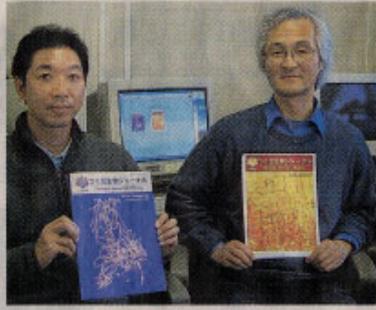
創刊号の九月号は、投稿者約五十人。宣伝用に作成した印刷版はA4判で百ページを超えた。

現役教員や学生は現在の同学類の状況を紹介。他大学や企業、中学高校などで活躍するOBはそれぞれ独自の視点から大学教育に対して意見を述べている。

また、同学類では、子供の理科難れに対応した社会貢献事業として、小中高の生徒や教師を対象にした体験学習プログラムも構想している。そのような交流の輪の拡大にもジャーナルを活用していきたいという。

林純一学類長は「大学は研究だけの場ではない。これからは教育の実態を、もっと評価する必要がある。ジャーナルを通じ、日本の科学教育に一石を投じていきたい」と話している。

生物学類のホームページアドレスは<http://www.bio.tsuakuba.ac.jp/cbs/index.html>



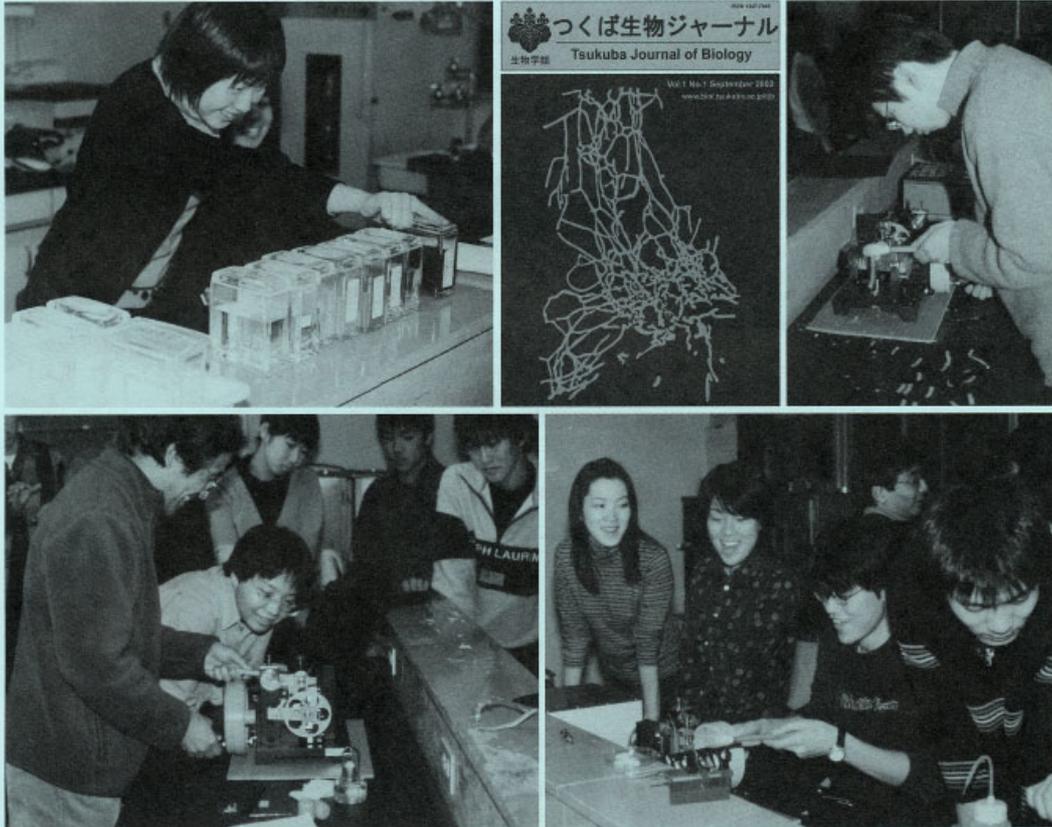
「月刊誌」を発刊した筑波大生物学類の林学類長(右)と編集担当の丸尾文昭助手

図4 新聞紙上で紹介された「つくば生物ジャーナル」

2003 1. 23

University
of
Tsukuba
STUDENTS
つくばスチューデント

生物学類基礎生物学実験の様子と「つくば生物ジャーナル」(www.biol.tsukuba.ac.jp/tjb) 創刊号



contents

- ② 平成15年度課外活動団体三系委員長&スポーツ・デー局長あいさつ ▶ 課外教育
- ④ 平成15年度課外活動団体三系役員
- ⑤ 冬季の省エネルギー対策について
- ⑥ 新入社員からのメッセージ/就職後の状況と希望 ▶ 卒業生だより
- ⑦ 「国際関係学」の枠組みにおける国際法(学)を学ぶという作業の意味 ▶ 学群学生のいま
- ⑧ 「学生のためのエンカウンターグループ」に参加してみませんか
▶ 保健管理センター学生相談室
- ⑩ スポーツ選手の「コツ」の話から ▶ 保健管理センターだより
- ⑪ 第14回:大根1本ととり肉で2度おいしいメニュー ▶ つくばスポーツライフ
- ⑫ スポーツをしよう!! ▶ つくばの仲間たち
- ⑬ 平成14年度OB・OG懇談会(会社説明会)開催 ▶ 学生部就職課
- ⑭ 授業料の改定についてetc.▶ インフォメーションつくば

発行 ● 筑波大学学生部
編集 ● 学生担当教官室

TEL 029-853-2959
FAX 029-853-2974

年度No.15 通巻517号

配布スタンド ● 本部棟・学生部前/一学C棟・学担室前/二学・三学・医専・体芸・各掲示板前/宿舍・各共用棟事務室前

図5 つくばスチューデントの表紙を飾るジャーナル創刊号